

キシキイチゴ		<i>Rubus kisoensis</i> Nakai	絶滅危惧 I 類
			バラ科
選定理由	県内では産地がごく限られる非常に稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅に直結するため。		写真(岐阜県博物館) 標本
形態の特徴	直立する落葉低木。茎は細く、無毛。刺は小さい。葉は単葉で卵形-長楕円形、鋭浅裂二重鋸歯縁、基部は心形、長さ10cm強、5浅裂し、下面は無毛。花は単生、點頭し、径約2cm。萼片は披針形、鋭尖頭、花時には開出。花弁は白色、卵形-円形。雄蕊多数。雌蕊多数、無毛。果実は球形、橙色。		
生態的特徴	溪流付近やや湿った山地の林縁に生育する。安定した林内ではなく、攪乱のあった場所に生える。		
分布状況	本州(中部地方の主に長野県と岐阜県)に生え日本固有。岐阜県では御岳山麓部の湿潤林内に非常に稀に生える。長野県木曾郡南西部にはやや普通。		
減少要因	森林管理の停滞に起因する、攪乱された草地の樹林化のため生じる日照不足からの生育不良。		
保全対策	森林管理の促進による樹林化の抑制。		
特記事項	モミジイチゴの木曾産の大葉型変種とする考えもある。近接してよく見られるハスノハイチゴ <i>R. peltatus</i> Maxim. (環境省カテゴリー: 準絶滅危惧) は県内の山地に比較的広く見られ、近い将来に絶滅のおそれはほとんどない。		
参考文献	Flora of Japan. Volume II b. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Rosaceae 23. <i>Rubus</i> L. N. Naruhashi		

文責: 高野裕行